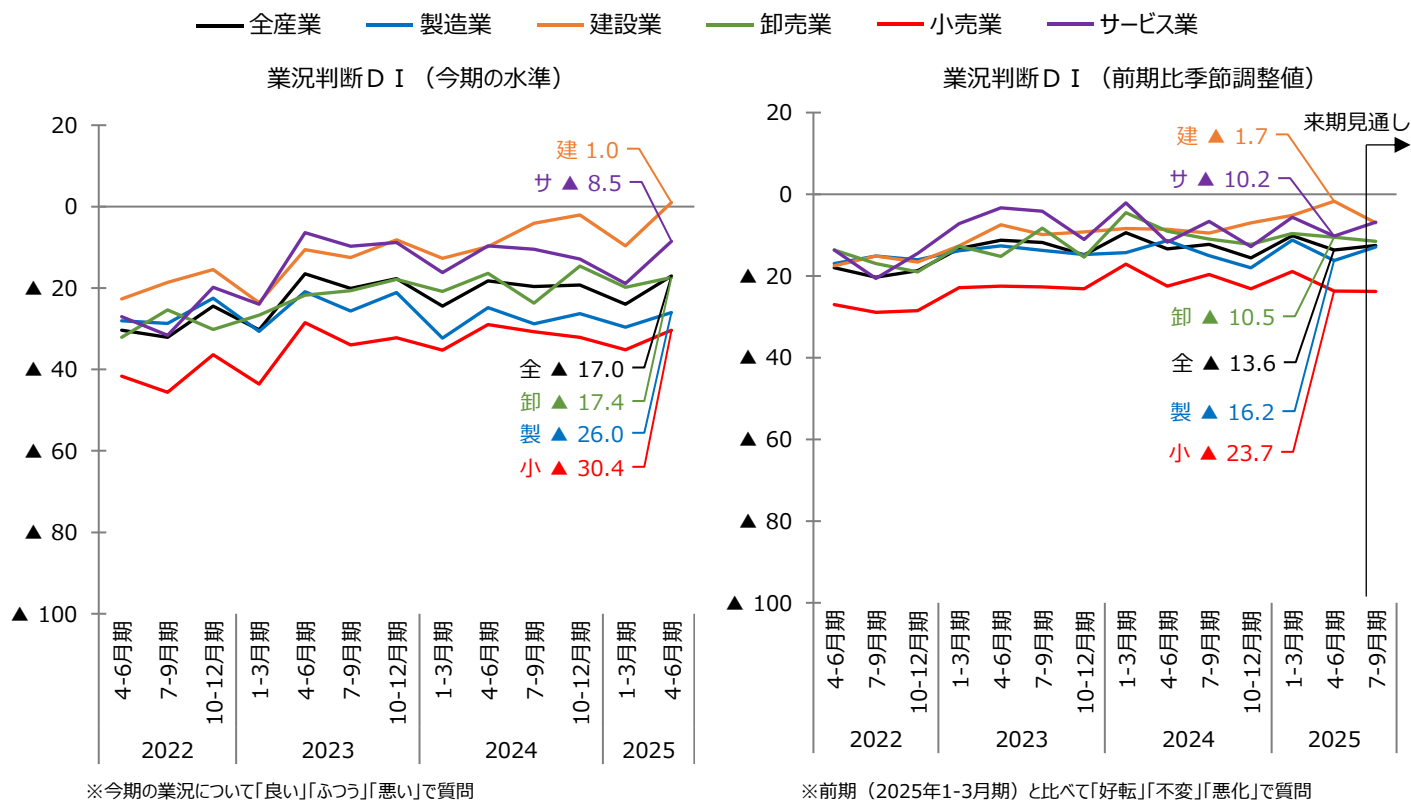


第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 関東



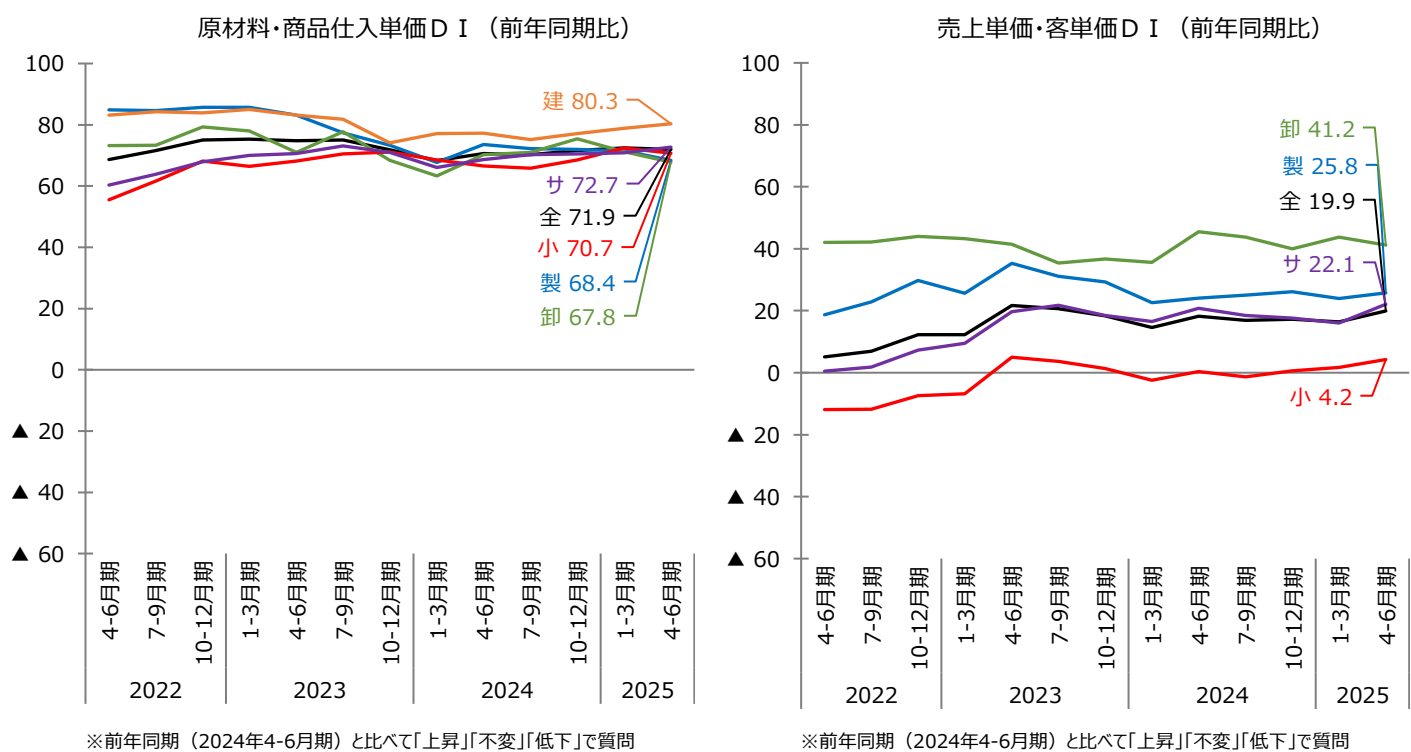
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年1-3月期）より7.0ポイント増の▲17.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント減の71.9と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、サービス業、建設業で上昇し、卸売業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント増の19.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,841 有効回答企業数：17,899 有効回答率：95.0% うち、関東：4,883企業

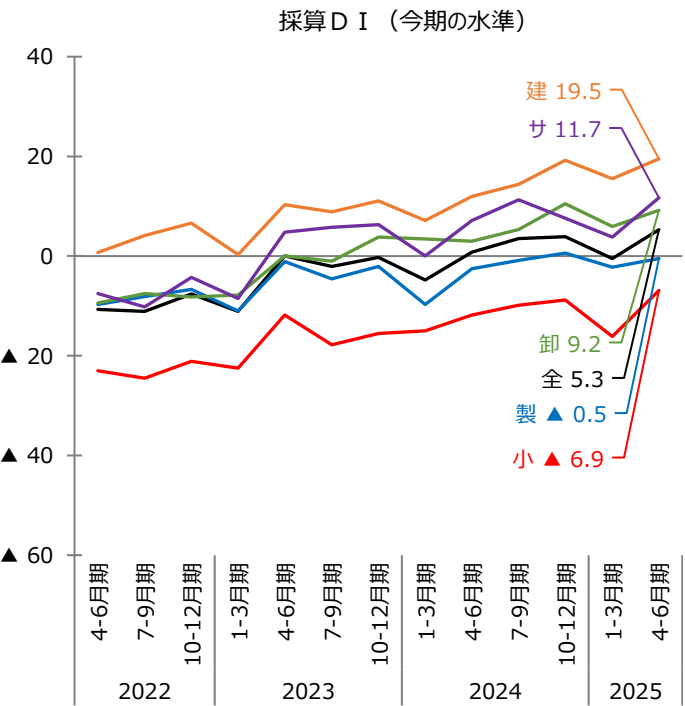
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 関東



3. 採算

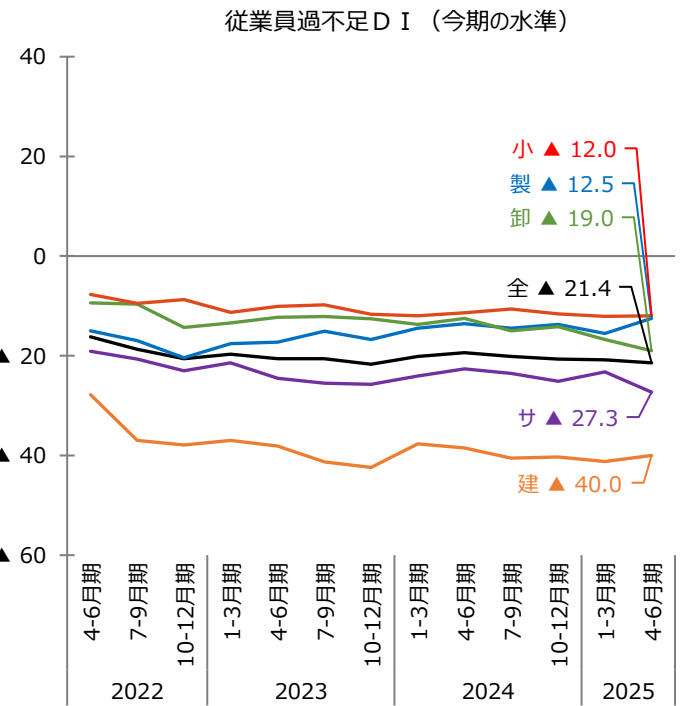
採算DIは、全産業で前期より5.8ポイント増の5.3と2期ぶりにマイナスからプラスに転じた。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の▲21.4とやや低下し、4期連続して低下となった。産業別にみると、製造業、建設業、小売業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	米国関税により車をはじめとする業界全体が様子見で停滞してしまっている。金属資材の高騰はまだ続き、下半期の回復も無いように思う。	製造業	電子回路基板製造業
	大型需要が減少し、小規模事業で凌いでいる。材料等価格、人件費の高騰の為、採算は収支トントンな状況にある。	建設業	一般土木建築工事業
	エネルギーや原材料費の高騰により商品の値上がりが続いている。求人しても応募がなく将来的に不安。事務所・倉庫の老朽化が進んでいる。	卸売業	その他の各種商品卸売業
	米国関税の影響により、アメリカ経由で仕入れていた中国商品が仕入れられなくなり、売上は大幅に減少し、これからも前期に比べ減少する見込みである。新たな仕入れルートの開拓が急務となっている。	小売業	その他の無店舗小売業
	米国関税によって経済状況が不安定な中、観光業にどのような影響が及ぼされるのか心配であるが、今のところ宿泊客は、人員・単価ともに伸びている。米・食材・燃料等の物価高にも注視している。	サービス業	旅館、ホテル
見通し	新規の取引が徐々に進行している。この調子でいくと受注は増加していくと予想。量産品ではなく、多品種少量を継続して、他社でできるものではない品質にこだわって生産していく。高付加価値の製品に挑戦したい。	製造業	銅・同合金鋳物及びダイカストを除く
	人手不足や原材料、エネルギーの物価高騰はマイナスだが、それ以上に好条件（受注単価増加）の引き合いが増加し、業況は良くなっている。これからも続くだろう。	建設業	土木工事業（別掲を除く）
	中国経済の不調により輸出の売上が減少しているが、自社製品の梅酒が人気でシンガポール・オーストラリア・国内で売上を作っている。商品の製造を増加する為に製造設備を拡大したい。	卸売業	酒類卸売業
	前期は、卒入学シーズンで必ず買う必要がある商品があったので売り上げが取れていた。今期は閑散期で、なかなか売上が取りにくいのもあったり、物価上昇により、買い控えが進んでいる様子が伺え、厳しくなりそう。	小売業	他に分類されない織物・衣服・身の回り品
	米の仕入れ業者から仕入ストップがかかったため、止む無くスーパーなどで高い米を購入せざるを得ず、米不足で苦慮している。	サービス業	その他の専門料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。